

主査・委員長からのメッセージ

NGFとニューガラス大学院

滋賀県立大学工学部 材料科学科

松岡 純

ニューガラスフォーラム（NGF）の創立30周年、おめでとうございます。NGF主催のニューガラス大学院の委員長として、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

NGFでは、創立当初から開催していた基礎講座をもとに、1996年からニューガラス大学院を開講しました。ガラスメーカー等の若手技術者の研修を目的に毎年開講しており、現在は基礎講座2日、応用講座2日の4日間（一方のみの受講も可能）です。このうち基礎講座は主にガラスの物性、構造、溶融の基礎を、また応用講座は種々の製造・加工方法や用途を講義し、2015年度だと各々8件と10件の講義があります。講師はガラスメーカーや製造・加工装置メーカーで研究開発に携わる方や大学でガラスを研究している方で、各々の専門部分を担当いただいています。これまで19年間の受講者は延べ1310名（年平均で約70名）で、多少なりともニューガラスの発展に役だったものと思います。

本大学院の目的は若手エンジニアの研修と記しましたが、実際にはそれ以上の役割も果たしています。私自身がガラスの熱的・機械的性質を担当させていただいた2001～2003には、ガラス以外の製品も製造しているメーカーの管理職の方が「ガラスも自分の担当に入るから」と受講されており、印象に残っています。また、数年前から国際ガラス委員会（ICG）がフランスのモンペリエでサマーセミナーを開催していますが、それは、ニューガラス大学院（参加者は主に若手社員）と日本セラミックス協会のガラス若手セミナー（参加者は主に大学院生）を参考に生まれたものです。

ただ、残念ながら最近数年は受講生が減少傾向です。最近では平面ディスプレイやモールドプレスレンズのようなヒット商品が減り、またガラス各社の新入社員の採用も減っているためと思われます。産業の発展にはそれを担う人材を育てることが重要だと信じていますが、特に応用編については、ニューガラス以外のガラスにも役立つ内容を増やす、ガラスを部品として使う側にも役立つ内容を増やすなど、様々な改善を検討したいと考えています。皆様に忌憚ないご意見と温かいご支援を賜れば幸甚です。